

歯科医師たち自身が専門医を目指しているという環境下に置かれたからであった。インプラントのイの字もわからない時にまず、日本口腔インプラント学会の所属を勧められ、その後日本インプラント臨床研究会への入会を勧められた。臨床研究会の講習を受けて、少しずつインプラントの知識をつけ、実際の臨床でも埋入経験を積ませていただいき、ようやくケースプレゼンテーション試験を受けるにまで至った。実際、ケースプレゼンテーションについては学会のホームページや先輩歯科医師の話では知ってい

たものの、いざ自分が受けるに当たってはまだまだわからないことだらけであったが、今回の予演会で自分では気づけないようなところをあらゆる視点から厳密にチェックしていただいたおかげで、試験に向けての自信がついた。勤務先の医局で先輩方に質問するだけでは十分な時間が取れなかったため、他の受験者の症例も見ながら専門医の先生方の的確なアドバイスを聞けるのは大変貴重であった。臨床研究会の先生に細かく指導していただいたので、必ず良い結果を報告できるよう全力を尽くしたいと思う。

令和4年度 第1回 特別研修会

## サイナスリフトの基本から 併発症対策

日時：令和4年6月12日(日)

場所：フラクシア東京ステーション、Web併催

講師：嶋田 淳先生



迫田 竜二(大分県)

令和4年6月12日(日)第1回特別研修会が開催されました。今回は、明海大学病院教授である嶋田 淳先生に、「サイナスリフトの基本から併発症対策」の演題で講演していただきました。今回も、Zoomと集参のハイブリッドスタイルでの開催でした。九州在住の私にとっては大変有難いシステムです。当日は59名の先生方にオンライン参加していただきました。

私事ですが、卒後1～2年目だったと思いますが(今から24,5年位前ですが)、勤務先の歯科医院で嶋田先生にサイナスリフトの出張オベに来ていただいた時に、助手に付く機会に恵まれました。まだインプラント治療についてもあまり経験がない中で、いきなりのサイナスリフト手術を間近で見ることが出来た幸運を思い出しました。

上顎洞挙上手術の方法であるクレストルアプローチ、ラテラルアプローチそれぞれについて、術式やちょっとしたコツや着眼点など、動画を交えながら分かりやすく解説していただきました。また、上顎洞粘膜の損傷や裂開などのトラブル対応法、術後感染が疑われる時の対処の仕方についても先生の豊富な知識と経験を惜しげもなく教授していただきました。先生の巧みな話術も相まってあっという間に時間が過ぎて行きました。

総会前の2時間という短い時間でしたが、サイナスリフトに関する必要なエッセンスがぎゅっと詰まった非常に濃い内容となりました。是非とも今後の臨床に参考にしていきたいと思います。